

第7回 甲賀市小中学校教育のあり方審議会 議事概要

1. 日 時：令和4年8月9日(火) 14時30分～15時50分

2. 場 所：甲賀市役所4階 教育委員会室

3. 出席者：〔委員7名〕(敬称略)

狩野秀樹、伊藤孝子、中西三夫、山田昭、前川志津子、青木秀樹、
八木正隆

※欠席：池田静香、中野和彦

〔事務局(市)〕

学校教育課 村地次長 松村参事

教育総務課 田原課長 田中室長補佐

〔傍聴者〕

1名

4. 内容

開会

市民憲章唱和

1. あいさつ

会長

皆さんこんにちは。先日から雨がたくさん降り、北海道はすごく雨が降って車が立ち往生するようなどがございます。滋賀県では、高時川、姉川が氾濫しています。こういうニュースを見ますと私どもが住んでいる野洲川近辺は昔は氾濫して大変でしたが、多くの先人の方のご努力により、苦労や営みがあって現在大きな災害もなく安心して住んでいることにありがたみを感じるわけでございます。

さて、最近、学校に出向いて行きますと、やっぱり子どもだけではないですけど、人間は案外比べることにものすごく意識しているもので、何々と比べるとできたとか、よくやったとか誰か他の人に評価をもらってもっと何かやる気が出てくるところがあります。

子どもも同じような部分がありまして、みんなに褒めてもらえるということがあるとやっぱり明日も頑張ろう。そう思うとやっぱり人がたくさんいるほうが良いということです。子どもがたくさんいるところがいつでも良いのかというと、ほめてもらえるばかりでもないので、自分の中で昨日の自分より今日の自分の方が問題がたくさんできたとか、昨日よりも早く走れたとか、昨日の自分と比べて10までやったということも自信に繋がるし、意欲にも繋がる。今、文科省で言っている個別最適な学びについて子どもに応じた学びを

という点でICTが入ってきたわけですが、そういう点で今、この審議会の中であり方としてソフトの部分とハードの部分について、今日はこれまでのいろんなことについて整理をしていく時間になろうかと思いますが、どうぞよろしくをお願いします。

2. 会議の概要報告、議事概要について

事務局

会議の概要報告について、ご説明させていただきます。

資料1をご覧ください。

1. 会議の名称は、第6回 甲賀市小中学校教育のあり方審議会、
2. 開催日時は、令和4年6月7日（火）14：30～16：00、
3. 開催場所は、甲賀市役所4階 教育委員会室です。
4. 議題は、会議の概要報告、議事概要について、今後の教育環境づくりについて意見交換、甲賀市の小中連携・一貫教育の取り組みについてです。
5. 公開又は非公開の別は、公開です。
6. 出席者は、委員7名、欠席2名と事務局職員です。
7. 傍聴者数は、1名です。
8. 会議の資料は、会議の概要報告、議事概要、甲賀市の小中連携・一貫教育の取り組みについて です。
9. 議事の結果概要は、
 - ・会議の概要報告、議事概要について、事務局より説明をさせていただきました。
 - ・今後の教育環境づくりについて、意見交換をしていただきました。
 - ・甲賀市の小中連携・一貫教育の取り組みについて、事務局より説明をさせていただきました。
10. その他は、ございません。

資料2をご覧ください。

- ・第6回甲賀市小中学校教育のあり方審議会 議事概要です。
- ・会議の発言内容を簡略にまとめ、議事の発言内容の記録欄には「委員」のみの表記とさせていただきます。

以上説明とさせていただきます。

3. 今後の教育環境づくりについて意見交換

会長

時代に即した学校の指導体制について、まず一つ目は、土山小学校の地域学について取り組んでおられるのを見ていただきました。地域学の取り組みについて皆さんが感じておられることを一つ目は聞いていきたいと思っております。

もう1点は、時代に即した指導体制として、教科担任制を入れるとか、ICTを活用するとか、今ならではの昔ではなかったような部分が指導体制として入って来ていますが、不易と流行の部分で、従来通りの部分も必要ですし、新たな部分を取り入れるというようなどころのご意見もお願いをしたいと思っております。

まず、地域学の取り組みについて、皆さんからご意見をいただきたいと思えます。

委員

地域学は、どこの学校でも地域や保護者、関係する方々の意見を聞きながらその地域に根差した学校づくり子どもづくりを考えていかなければいけない時代です。コミュニティスクールを含めてされていますが、学校だけで考えておられる場合と、PTAや地域委員会が考えておられる場合があります。

どういう方向で地域学を子どもたちにその地域の歴史文化を含めて教えるのか、どうして行けばいいのか困っておられるのが現状だと思います。

また、アドバイザーもそのメンバーの中に入っていないので、まとまりのある話ができないのが現状だと思います。

会長

今、おっしゃった中でねらいをしっかりと皆が持つことがどこかおろそかになって、方法や実施することばかりに専念されている。そういう点では、どこまで人がどこまで係わるかも含めて、どのような子ども育てていくかという大事なところを言っておられるのだと思いました。

委員

地域学について、自分の育った町や村のことを学ぶことは、子どもにとっては非常に興味の出るところだと思います。

コミュニケーションがないと言われていた中で、年配の方は自分たちが知っている内容を子どもたちに話すことができ、子どもたちにとっては、年配の方から学ぶことにより家庭や地域の人とコミュニケーションができる。うまくいけば非常に良いことだと思います。子どもたちの意見を引き出しながら、大人がしっかりとした意見で引き継げることができればすごく良いことだと思います。

会長

家ではなかなか計画的に意図的に子どもを育てることはできませんが、この地域学は計画的に意図的に子どもを育てることができるとおっしゃっていただいたと思います。そして、いかに子どもの良いところを引き出してあげるか、どれだけ係わってあげるかも大事だということだったと思います。

委員

地域のことについては、総合的な学習が始まった頃、低学年では生活面も含めて自分たちの生まれ育った地域を知ることによって一定ずつ力を入れて進めてきたと思います。

特に地域の支援も、ずっと前からそれぞれの学校が地域にいらっしゃる方々をいろいろ見つけ出しいろんな支援をいただいて、直接的に学校に来ていただいたり、出かけて行って、その地域の方と地域のその場所を提供していただきながら、計画を練って改善をして進んできたと思いますし、甲賀市内の各学校 例えば、土山小学校、多羅尾小学校、貴生川小学校に応じた地域学を進めておられると思います。

今も各学校が新たに地域ボランティアとして学校ボランティアを依頼する働きかけの中で、環境面と学習面での支援で、地域の方をどう活かすかを求められていますし、一定進んできたと思います。

ただ、その学校の地域性や学校規模によってすごく違いますし、今、少人数のことになります小さい学校では、その地域の力だけでなくやっぱり子ども同士が切磋琢磨できたり、学び合えるようなことがやっぱりなかなか難しいのではないかと、1 学年 1 人、1 学年 2 人では学び合いが地域学に関しても難しいと感じています。

会長

土山小学校になって、鮎河や山内のことを土山の児童も勉強することについてどう思われますか。

委員

現在の土山小学校の体制になって、以前の土山小学校区だけでなく、山内、鮎河地域の児童が自分の住んでいる地域のことを調べて地域の大人の方に話を聞いて学ぶことを土山小学校へ鮎河小学校、山内小学校が集まった形になってもそれぞれの地域を学ぶ方法を土山小学校で教えていただいた気がします。

会長

それぞれの学校もそうですし、土山小学校全体としても鮎河や山内のことを知る、学習に行くことは良いことだとおっしゃっていただいていると思いました。ありがとうございます。

委員

地域学について前にもお話しましたが、単にふるさと学習ではなくて地域が抱えている課題について、大人も子どもも共に考えて行く面が地域学習の中にないといけないと思っています。ただ子どもを学ばせるのではなくて、ともに学ぶ姿が必要かと思っています。

ボランティアは、コミュニティスクールの面で学校が主体ではなく、地域づくり協議会がボランティアを推薦したりする面が出てこない、なかなか地域としての学校づくりはできにくいと思います。一部の人頑張っているのではなく、地域づくり協議会、コミュニティスクールがどう関わるかは大事なことだと思っています。

私の知っている地域は、コンビニがなく地域に小さな車で売りに来られます。そのことについて、子どもたちに熟議をさせる中で地域の方に入ってきて、地域の購買をどうするかを話されていて、外部から来られた時にこれは非常に面白いと話が出ていました。

子どもたちが自分たちの課題ではなくて地域の課題を考えていくのは大事かと思いま

す。

それと最近のテレビで北海道の少年議会で少年市長という選挙をやっていました。高校生3年生が少年市長になって予算50万円をもらって取り組みをしていますが、もう子どもだからという視点ではなくて、子どもの目線をどう活かしていくか子どもから学ぶ視点が地域学には必要かと思います。

会長

ふるさとを学ぶ総合的な学習が始まった頃は、自分の地域を知るということでしたが、その中には課題があって、物を売るにしても売れないものがあることを子どもは子どもなりに知ることが必要であるということをおっしゃっていただいていると思います。

物を作ってどうやったら売れるかを考えさせることで、物づくりから人づくりをすることについては、昔のふるさとを学ぶという点と今は変わりつつあるお話しをしていただいたと思います。

委員

地域学で地域の人たちを巻き込むことは、一定は進んでいると思います。

ただ、時代に即したということになると、まだ始まった頃の学校支援ボランティア、授業のことに協力していただける方を集めるとか、従来のやり方から一歩新しい取り組みに進めば、課題解決のために企業を巻き込んでいくとか、ちょっと新しい方向へ進んでいかないといけないと思います。

学校の児童を育てるねらいは、学校が思っていること、地域の思っていること、その話し合いが一致することは難しいことであり、学校は学校で進めるし地域の思いもある中でそこを結びつけることができると、もっと地域学の取り組みは新しい取り組みができていくと思います。土山小学校へ見学に行けませんでした。土山小学校は土山のいろんな方がコミュニティスクールの協議会に入って、一定進んだモデルになっていると感じます。

会長

この時代に即したということは、あくまでも今の流行としてあるものを使うことではなく、子どもがどういう大人になっていくかということを見据えた時代に即したという部分であって、そのためにどういう体験させたらいいかというところで、地域学の話があって、今おっしゃったように子どもであり、学校であり、地域が同じ思いでいかないといけないわけですね。

だから、ここでの話し合いについても、やっぱり地域や保護者の思いもそうですし、子どもがどう思っているのかというアンケートもあると、私たちのあり方の審議としては、裏付けになっていくのではないかと思います。土山小学校でお茶のパッケージを作って売っている子どもの姿は、今求められている大人も必要とする力を子どもたちがちょっとずつ身につけてきていると私は見せてもらいながら思いました。

お茶摘みしながら、お茶をどうやったら売れるのか、どのパッケージにしたら良いのかというのはまさに今そういう力が社会の中で必要なのではないのかと思いました。

そういうことを時代に即したと言われていたのではないかと思います。

もう一つは、今あるハード部分で ICT、GIGA スクール構想でタブレット端末が急遽去年から導入が進み、貴生川小学校を見せていただいたときに教科担任制を高学年に取り入れていたり、中学校や高校で教えていた先生方が図工を教えておられました。

時代に即した学校の指導体制について、ご意見をいただこうと思います。

委員

専門的な教科担任制は、小学校5、6年生ぐらいになると、必要不可欠で非常に良い取り組みだと思います。ただ、全ての教科に教科担任制が必要かと言われるとそうでもないように感じます。ある教科については教科担任の専門的なアドバイスにより、非常に伸びる子は伸びると思います。私の考えとしては、小学校低学年から始める必要はあると思っています。

会長

教科担任制についてどのように思われますか。

委員

子ども立場を考えると、教科担任制になると専門的な先生に教えていただけることになるので、子どもたちにとっては魅力だと思います。教科に精通されている先生に教えてもらえる。子どもたちは、今までは全部の教科を1人の先生に教えてもらっていたが、この教科は専門的な知識を持った先生に教えてもらえるとなると、興味を持つ子どもは多くいて教科を頑張ろうとなるのではないかと思います。

中学校になると全教科が教科担任制になるので、教科によって先生が入れ替わることが珍しくなくなりますが、小学校の段階で教科担任制を行うと、教科に対しての興味の持ち方が変わってくるのではないかと思います。

会長

小学校の担任の先生がずっと子供たちを見ているのを教科担任制にすることで何かメリットを感じられますか。

委員

教科担任制に限らず、少人数もそうですが、より多くの目で子どもを見られるのはすごく良いことだと思いますし、なかなか担任の先生1人では気付けない部分が、傍から見て教科に入っただく中で見えてくることや子どもにとってもいろんな先生に接することも大事だと思います。中学校へ行けばたくさんの先生に接しますし、そういう意味でも小学校高学年でいろんな先生のすばらしさや人間性に接することは、良いことだと思います。

貴生川小学校も専門的な先生の技術や知識、指導力でより楽しい学習ができるのではないかと思います。なかなかすべての小学校でするのは難しいと思いますが、貴生川小学校を見せていただいた時にそう思いました。

指導する側も、いろんな先生が入っただくことで学びもできますし、なかなか小学校でいろんな教科のすべてを教材研究するのは難しいと思います。指導する側もすごく良

と思います。

会長

小学校高学年が中学校化してきて、小学校高学年でずっと担任の先生1人に習うと上手くいかないこともあるので、そういう点は、いろんな先生が見てもらえる方が良いと思います。また、この先生が私のことは分かってくれるという点も子どもたちにとっては良いと思います。

委員

教科担任制は、教科への興味関心の芽を育てるという意味では、刺激的であると思います。小学校、中学校の教科が面白いという部分が大事で、そういう意味で、中学校の教科担任制と繋ぎにあたる小学校高学年の教科担任制の違いを意識する必要があると思います。小学校は、中学校もそうですが、教科を教えるのではなくて教科で教えるという面も小学校では意識をしています。「この教科でこの児童をどのように教えていこうか」小学校高学年の教科担任制では必要だと思っています。

また、小中一貫の小学校、中学校の先生方の連携部分で、その辺は大事だと思っています。

委員

教科担任制で教科指導は確かに1人の担任の先生よりも充実した指導ができるのは、確実だと思います。

中学校は、教科指導、教科担任制が以前から出来ているので、指導体制で何かあったときにも学年で1人1人の子どもを見ていく体制ができていると思いますが、小学校の場合は例えば貴生川小学校でも非常勤の方が授業だけを教えるとなった時には、授業の中でこの子がどうであったかとかいう話を担任に話す時間がなかなか取れない。そういう課題も多分、いっぱい小学校ではあるのではないかと思います。教科担任制は、プラス面が多いけれども、マイナス面もあるということ先進事例の中から、きちっと把握してプラス面とマイナス面をいかに今のこの指導体制に合わせてより効果的になるようにしていくかそこが大事であると思います。

会長

いろんな外部の方に授業をしてもらうのは良いと思いますが、成績をつけたり、子どもの毎日の様子を見て指導する点では難しいところもあると思います。

教科担任制のメリットとデメリットで言えば、メリットが多いのではないかと委員の皆さんはおっしゃっていただいていると思います。

ICT、タブレットについてはどう思われますか。

委員

これから必ず必要なものだと思います。道具として、会社へ行っても社会に出ても必要なツールだと思います。使いこなせるようになることは、非常に大切かと思っています。

ただ、それをどういう形で子どもたちに教えていくのか、教える側の課題の方が多いのではないかと思います。子どもたちは使いこなすのは早いし、忘れないと思います。子どもたちにどういう使い方をすれば効率的に正しく便利に使えるかを教えるのが難しいと思います。

会長

早い時期からタブレットの使い方を教えることについてどう思われますか。

委員

早い時期からタブレットを使う方が覚えやすいと思いますけれども、テレビを見ていますと裏サイトでいじめが発生するなど聞いたりします。

子どもたちには、タブレットの有効な使用方法を教える良いことと悪いことをはっきりとけじめがつけられるような使い方ができるようにすることが大事だと思います。タブレットを使うことで計算するのは楽ですが、漢字が書けなくなることもあります。

子どもたちは、タブレットを使う時間と使わない時間を分けて学習のすみ分けをすることが大事だと思います。

会長

スキルを上げるためにアナログでやったほうが良い部分と、調査をするなどの点ではICTは便利だと思います。アンケートするのも簡単ですね。

タブレットを使えば、辞書をひいて調べるよりも簡単で、辞書を置いておく教室のロッカーもいらなないかもしれませんね。

委員

タブレットは、学校見学をさせていただいた時に多羅尾小学校でも使っておられましたし、特に土山小学校で6年生が上手に操作をしてみんなに説明していたと思いますが、自分の足で人と出会って聞けば良いこともインターネットで調べて、結果としてインターネットで調べた内容を説明できない場面がありました。残念だなという思いと使い方が難しいと思いました。

小規模校で多羅尾と朝宮と小原が集合学習をずっと以前から行っておられて、今はリモートで話したり学習し合ったりされていると思います。日々、私たちがついていけないぐらい子どもたちは成長しています。逆に先生方がどれだけ教材研究して取り組み、非常に大変だろうなと思いますが、有効に使われるのが良いと思います。

会長

「調べるだけで発表しては駄目だ」と子どもが気づくことをさせないと、次の段階に進めません。

多羅尾、朝宮、小原小学校の児童がタブレットを使えば、同じ教室の中で一つの授業を行っているような感じで行える。これは有効だと思います。

委員

ICTを使うと児童全員に同じ質問をすると、先生はその回答を全部見られると思います。上手く使えば、すべての児童の回答が1ヶ所で見られることで理解するのが難しい子どもたちが少なくなることにも繋がるのではないかと思います。

すべての児童の回答が1ヶ所で見られれば、その児童に応じた指導をできるのではないかと思います。そのような使い方は、良いことだと思います。

会長

甲賀市の児童はタブレットを自宅に持って帰ることができると聞いていますので、学習内容を反復練習しようと思えばできますね。

児童自身が学校で勉強をしてその時考えたことを参観日でなくてもおうちの人に見せることもできますね。

学校訪問で体育の授業は見てなかったので分かりませんが、体育の跳び箱を跳んでいる自分の動画を撮ることができます。ちょっと時代が変わりましたね。

どれだけ跳び箱が飛べるようになったか、鉄棒ができるようになったか動画を撮っておうちの人に見てもらうことができます。また、去年と今年の跳び箱の跳び方も比較するのも有効かなと思います。

委員

私の孫のタブレットを見ているとクラス全員の考え方が一覧表で分かるので、意見をたくさん書いている子、ちょっと書いている子、親がクラスの状況が分かる。その状況を見ることについては、約束事やプライバシーを守るルールが必要だと思います。ICT機器のトラブルがあって使えなくなった時にストップしてしまいますので、他の方法で代替できる手段をいくつも持っていることは大事だと思います。調べられなかったら文字情報が探せない、自分の勉強は進まないでは困ります。手段がいくつもあるうちの1つであると思います。

会長

いろんな手段の方法を知るといふ点では従来の手段の方法も知っておかないといけないと思います。

委員

ICTは、確かに有効だと思います。

有効にするためにやっぱり教師が大変だと思いますが、自分がICTで教えた経験は少しはありますが、ICTを使って進んだ授業をしたことはないのと言えませんが、今なら使い方の事例がたくさんあってどれをどう使うか、児童1人1人に合わせて行うのは難しいと思いますが、この学級にはこういう使い方をするなど教師の研修が本当に難しいだろうし、教師も大変だろうと感じます。

会長

先ほどの指導の個別化の点では、やっぱり勉強ができる児童のプリントと勉強ができない児童のプリントを分けてスモールステップでやらせることや例えば「僕は、土山のお菓子について」、「僕は土山のお茶について」、それぞれの個性化という点ではICTはすごく有効だと思います。子どもが授業でパワーポイントを使い、ある程度パワーポイントが使えるようになると結局アピールするのは口が一番良いことに6年生で初めて気が付いてきます。5年生は、パワーポイントでいろいろアニメーションなどを入れてスライドショーを行います。6年生になると人を説得するのは1枚のスライドを写真や絵葉書などで話すのが良いと分かってくる。それもやっぱりパワーポイントを使わないと気が付かないのでやらせる。先程の土山小学校の子どもたちも1年生からずっと学んでことで来年は今年とは違うより良い方法で、ICTを上手に活用するという点ではものすごく有効なものであるというご意見だと思います。

次に先日の宇治市の宇治黄檗学園の視察も含めて小中一貫教育について、皆さんどのように思っておられるか。小中連携は、小学校が中学校へ滑らかな連携、幼保小連携ですと幼稚園、保育園の子どもが小学校へ行く滑らかな接続という点での連携です。

甲賀市では小中連携を行っていて、これを小中一貫教育の点で見たいと思います。宇治黄檗学園の視察を振り返ってご意見を伺いたいと思います。

委員

いろんな形の小中一貫がある中で、宇治黄檗学園ですが、私立に近い形の小中一貫だと思います。

ただ、甲賀市では施設一体型9年間の小中一貫校はちょっとまだ早いかなと思いました。

併設型で小学校と中学校の交流がある形の方が、保護者らの関係も取り組みやすいと思いました。もう1点考えておかないといけないのは、遠くから学校へ通う子供たちに学校が終わってから5時過ぎまでの学童をどういう形で行うか。例えば、閉校になった学校で学童を行うなど考える必要はあると思います。そういう形の取り組みを同時に考えたうえでの統合や小中一貫教育、併合という形を考えた方が親としても安心して通わせられる。遠くの学校から3時頃に自宅へ帰ってきて親もいないし、子どもたちが心配になると思います。

だから、閉校になった学校で幼稚園の子どもや小学校から帰ってきた子どもも学校が終わって放課後はそこで学童で宿題も見てもらえたり、遊びをしてもらえるなど活用する方法もあるのではないかと思います。

会長

小中一貫教育で何かテーマを決めて取り組むことは、土山小学校で何かできそうなことがありますか。

委員

ちょっと分かりません。

会長

小中一貫教育について、どのように思われますか。

委員

教科担任制をする場合には、小中一貫教育にした方がやりやすいのではないかと思います。小中一貫教育にすることによって、小学校、中学校を両方見られる教師を増やして、子どもたちに魅力を感じてもらえるように小中一貫校を出していく方が良いのではないかと思います。現状の教師の人数で小中一貫教育をすると無理が出てくるのではないかと思います。

会長

中学校の教師の人数を少し増やしてと仮定して、どんなことを魅力にして小中一貫教育をすれば良いでしょうか。

委員

教師が専門的な知識があること、教科の専門性を保護者にも分かってもらって、子どもたちが勉強すれば伸びていく。今までは担任の先生1人にいろんな教科を教えてもらっていたが、専門的な教師に教えてもらえるからいろんなことが聞ける、教科の専門性が魅力だと思います。

委員

資料を見せていただいて、小学校から中学校へ行く時につまずく子もいますのでスムーズな繋ぎという点では9年間は良いと思います。専科制や児童の人数も増えますし、学び合いの面でより幅広い学び合いができる点で素晴らしいと思いました。甲賀市のことを思ったときに今の状況で甲賀市は旧町単位で比べると人数規模がすごく違うと思います。水口、甲南、信楽と他の地域を比べて、そこにあてはめるのは難しいと思いました。

いろいろ課題があって、それぞれの地域の状況に応じたこれからのあり方として、小中一貫校を進めて行けるところもあれば、他の形を探っていかなければならないところもあります。宇治黄檗学園の資料を見せていただきながら、甲賀市の今の課題をより明らかにした上であり方を見ていかないといけないと感じました。

会長

建物もそうですけど、中身の部分で今、甲賀市では小学校6年生が中学校に行く点では小中連携をやっておられますが、小中一貫教育の点で長浜市の虎姫学園はどうですか。

委員

私は、宇治黄檗学園には行けなかったのですが、事前質問の中で、「今後、義務教育学校しますか」という質問で「義務教育学校にはしません」という回答でした。宇治黄檗学園は、形としては、校長先生1人で義務教育学校の形になっています。義務教育学校の完成形を見て来られたと思います。京都の御所南、御池小中連携は、建物は別ですが6年生の先生が中学校の先生の職員室に行く形をとっている事例もあります。

カリキュラムや行事を一緒にしたりいろんな取り組みがありますが、何か複合的に入っていないとカリキュラムだけを1つにただけではとてもできないと思います。

根底に小学校教員と中学校教員の意識があり、15歳でその子どもをどうするかという出口の部分で小学校1年生の担任、中学校3年生の担任が共通理解していないといけないと思っています。

私の市の方では、今話しているようなことがありますし、大人の意識が大きいと思います。小学校の先生、中学校の先生が子どもをどうしていくかの話が真剣になされていないと、途中で対応する先生がどの方向を向いたら良いか、たまたま転任で来た先生がどうしたら良いのか分からなくなってしまうのは、共通理解が十分でないと思います。

長浜市虎姫学園からもよかったら見に来てくださいということも聞いています。滋賀県内だと高島市高島学園、彦根市鳥居本学園。滋賀県内の現状を見られても良いかなと思います。そうすると甲賀は甲賀のやり方が出てくると思います。甲賀の小中一貫の何かエッセンス（最も大切な要素）は必要だと思います。

委員

小中一貫教育は、9年間で子どもを育て目指す子ども像を小学校1年の担任も、中学校3年の担任も共有することが一番大事な点だと思いますし、自分が小学校1年生の担任をして中学校3年生をイメージすることはちょっと難しいけれども、視点をきっちり持って小中一貫教育がいかに行けるかが大事だと思います。

小中連携の場合は、情報交換をしっかりして交流をすることだが、小中一貫教育になるときっちり視点を持ってやっていないと意味がないと思いました。

小中一貫校で施設一体型の宇治黄檗学園では、小学校1年生児童が身近にいることで中学生が優しくなったと聞きました。中学生だけの学校に比べると中学生の行動や考え方が変わるのではないかと。想像の域ですが、生徒指導面では大きいのではないかと感じました。

会長

9年間を見据えて子どもをどう育てるのが小中一貫教育の大事なところで、そのために小学校1年生は1年生なりに中学校3年生は3年生なりにこの狙いに即した指導をどうするかというところに一緒に一つの屋根の下に居させた方が良いというのが小中一貫教育だと思います。本来は、例えば甲賀市の中でも、小学校と中学校は9年間を見据えた考え方の中でやっているが、なかなかそういうふうになっていない。何とかもっと目に見える形で気持ち的にも意識的にも子どもも先生も地域の人もこうやって子どもは育っていくのだと分かるようにするのが小中一貫教育だと思います。土山小学校のように小学校1年生の児童が小学校6年生まで地域学で地域を愛する。「地域のことが自慢できる姿が見られる子どもに育てましょう」と校長先生がおっしゃっていました。それがそのまま中学校まで引き継がれるようにやっていく。小中一貫教育がこれからの時代に即した今求められている子どもたちに必要な力ではないかと思っています。

今、私たちが話していることを保護者の方や地域の方もそう思っておられると思います。あとは、子どももそう思っているという裏付けがあれば、私たちが今皆さんと知恵を出し合っていることが裏付けされて、この必要性についてもっと話していけるのではないかと

思います。

委員

先ほど総合的な学習、地域を学ぶ学習がありましたが、小学校の総合的な学習と中学校の総合的な学習は、完全に分かれていて繋がってなかったと思います。だから、土山学1年生した子が2年生の土山学、6年生の土山学、中学校1年生の土山学になっていくのが一番良いと思います。

義務教育学校は、教員免許についても小学校免許、中学校免許を両方持っているということを見ると、小学校は中学校の、中学校は小学校の教育のあり方を1人の人間が理解している教員の能力、資格があると思います。おっしゃる通りだと思います。

会長

教える内容やシステムは、教科担任制やテストの部分が小学校と中学校で違いますけれど、「こういう子どもを育てよう」ということであれば、囲み合ってみんなで相談することはできるのではないかと思います。

だからそういうことをセッティングしたら、先生方は同調していただけるのではないかと思います。今、保育園と幼稚園の先生と一緒にあってなかなか難しいですが、子ども園を運営されています。それと同じように小学校の先生と中学校の先生も一緒にあって、教科の指導の仕方については違うかもしれませんが、子どもを育てる特別活動や学級経営などの点で話し合いをしたらどこか交わる部分があって、子どもも先生も感じてもらえたら良い学校ができるのではないかと思います。その施設の姿として併設型や一体型などいろいろな形があると思います。

今日、お話しせてもらったようなことも含めていよいよ後半は、令和4年度の提言を考えていきたいと思います。

できたら、今子どもたち自身が「私たちにはそういう姿や力が必要だ」ということを甲賀市の子どもがどう思っているのか、子どもたちに対してのアンケートをやっていただくと私たちが頑張っているあり方審議会のことも裏付けされて説得力があると思います。

グーグルフォーム等でアンケートをとれるように甲賀市の小学校、中学校の子どもたちが今のこともそうですけど、大人になっていく上でどんな力が必要だとか含めると、小中一貫教育で子どもたちにつけさせたい力、そのための地域学はどういうものが必要なのかというところにも繋がってきますので、また一度そういう内容でアンケートをとってもらうことが必要ではないと思います。

他に何かございますか。

委員

宇治黄檗学園に視察へ行き説明を受けましたが、良いことばかりでこんなことで苦労しているなどの話がありませんでした。本当にうまくいっているのかもしれませんが。

施設は非常に新しく使いやすい部分はありましたが、問題点が分かりにくいと思いました。

委員

職員室は、小学校と中学校で一緒でした。

事務局

電話で確認をしましたが、課題について話は聞けませんでした。

委員

以前に京都市内の大きい学校を何ヶ所か見せていただきましたが、やっぱり施設の問題で運動会は分けて実施されています。

授業については、1年生から9年生まできちっとされていて、6年生、7年生はスカッとしている授業をされています。

行事については、高学年と低学年が交流して仲良くしています。小学校、中学校の先生は交流しているけれども、新しく転勤で入ってこられた先生が直ぐに小中一貫に入れるかは問題点だとおっしゃっていました。

委員

余談になるかもしれませんが、水口東中学校、水口東高等学校の中高一貫校がありますが、水口東中学校の生徒は、水口東高等学校へ行ってもずっと水口東中学校の時と同じクラスです。カリキュラムが違うようです。

会長

水口東中学校、水口東高等学校の中高一貫校の6年間のカリキュラムになっていますので、水口東高等学校から入学した生徒は、中高一貫教育のカリキュラムに入れなくなっています。

委員

だから中高一貫校を例に考えてもそこが難しいと思いますし。小中一貫教育をするにしても小学校1年生から中学校3年生を何年も積み重ねていくとできるのかもしれないですが、ちょっとハードルが高い気がします。

会長

確かに全国的に子どもの数が減っていますので、もうこれは滋賀県だけでなしに、いろんなところが岐路に立たされていると思います。

そういう点では、やっぱり滋賀県らしさを出したら良いと思うんですけど、特に甲賀市は、地域学として土山小学校では、土山学の授業見せてもらいましたし、そういうふうに自分のところではこうやって子どもを育てるところが必要かなと思いますね。

それで皆さんのご意見を頂戴して次回その辺をちょっとずつまとめていけたら良いと思います。

できたら、子どもたちがどのように思っているかもアンケートをしてもらった結果、今度9月26日の間に結果を見てもらって、また意見を伺えると良いかと思います。

副会長

小中一貫教育については、前回の視察に行かせていただいて、確かに施設はすごいと思いましたし、もし保護者としてあのような施設の中で学習が9年間を見越してされているなら、それは魅力だなと思いました。

ただ、授業を見せていただいた時に6年生と中学校1年生の7年生の学びの繋がりが視察のあの時間では十分見られなかったし、9年間の育ちに大事な繋ぎの部分で小学校、中学校の枠を超えた教員として見ていけるのはすぐ魅力的な教育であるなと思いました。

ただ、甲賀市さんのそれぞれの地域の独自性っていうのがあるので、そこら辺も踏まえながら取り組んでいくというのは、なかなか難しい面もたくさんあると思いますが、私は魅力をすごく感じました。

子どもたちへのアンケートで子どもたちの思いを聞いていくのも、やはり子どもたちの教育これから生きていく上で、どんな思いで学校に通っているのか、どんな思いで今子どもたちが学んでいるのかも聞かせてもらえるとありがたいと思います。

土山小学校を見せていただいた地域学は、すばらしいと思いました。それが中学校でどんなふうに繋げていかれているのか、土山学の学びは、子どもたちの根っこになるので、そこを繋いでいくのは大事だなと感じました。

会長

今後、子どもの魅力を考えたまとめをしていこうと思いますので次回またよろしく願いいたします。

4. 閉会あいさつ

副会長

今日もたくさんの今後の教育環境について、委員の皆さんの意見を伺いながら感じていたことですが、中央教育審議会の答申の中で、令和の日本型学校教育の構築を国の方では目指していますが、そこで言われているのが、先ほどから出ていたすべての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学び、ICTの活用であったり、個別の最適な学び、協働的な学びの実現の答申が出ています。

個別最適と協働的一緒に学んでいくこと、そこがこれからの学校教育の中で求められている部分で、今、委員の皆さんが話し合っていたことはこれからの令和の日本型学校教育を進めていく上での本当に大事なところだと改めて感じました。

この後、提言に向けて話し合いを進めていくわけですが、より良い提言になるように引き続き話し合いができれば良いと思います。

本日はどうもありがとうございました。